

北條五代記

卷三

光

江  
通  
休  
一  
番



小條又代記表才三目錄

小條氏康と上杉憲政一戦の事

房州里見家の事

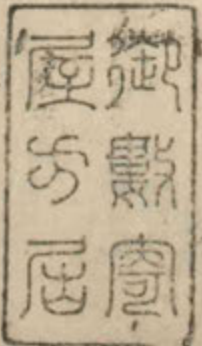
関分小鉄炮とくまの事

源義明公滅亡の事 村首志の事

軍法ひりふりつる事

上杉と平氏後をくわひの事

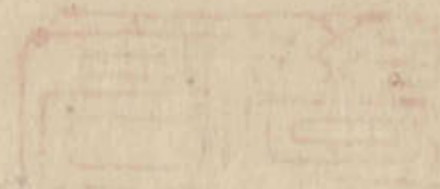
應永より慶長迄關東合戦次第の事



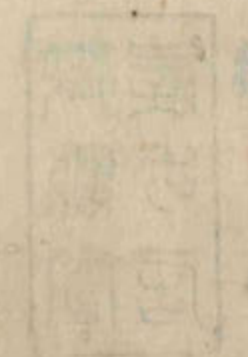
小条又代記表才三



徳川の徳川家康と関原の戦い  
 上杉と徳川との戦い  
 上杉謙信の戦い  
 関原の戦い  
 徳川家康の戦い



小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い



小泉氏康と上杉謙信の戦い

○小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い

小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い

小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い

小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い

小泉氏康と上杉謙信の戦い  
 小泉氏康と上杉謙信の戦い



為。及。白。一。城。を。取。り。り。と。記。し。わ。せ。と。せ。び。ら。り。  
 晝。夜。と。つ。と。と。と。と。氏。康。を。入。目。の。城。に。  
 多。野。と。と。と。と。自。國。を。世。國。  
 小。治。り。の。家。族。の。逆。亂。出。來。と。と。と。と。と。て。  
 ね。と。河。原。に。上。河。原。の。上。河。原。上。河。原。在。城。  
 と。は。人。の。數。方。の。合。戦。と。と。と。と。と。と。と。  
 大。剛。者。也。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 て。書。き。し。り。人。黃。八。幡。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 を。見。し。く。な。を。そ。れ。が。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 戦。の。予。い。毎。一。の。黃。八。幡。の。と。と。と。と。と。と。と。

團。と。わ。が。く。る。所。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 上。総。守。一。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 一。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 見。し。く。勝。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 弟。の。川。舟。も。上。総。守。の。子。あ。み。と。と。と。と。と。  
 と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 小。上。総。守。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 年。は。城。同。名。胡。定。居。城。也。氏。總。と。と。と。と。と。  
 一。門。の。ち。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 り。が。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。



てせめりてふとて上総守藤原の力責り成  
つて。是に古河の公方晴氏公の氏康丹後縁者憲  
政の田長ははきぬひひとて大坂の由ありの  
ひわり。然ちよ一憲政馬廻難波田原正入道が  
情も公方極へ素作していづく。伊豆相模も  
公方極の由成國とてたもとてかりもなり。早  
んて氏憲父子押取しその上武蔵下総の國の  
つとて切くぬ。遂威とつるひとりぬ氏總  
を六年。弟の年をまじとてたも子氏康若年  
しとて戦の合戦し勝利とてせよ。世よひひとて

大物のがまれとわつるも。憲政とがはひしともよる  
古河極と追討はつとてのま公方もかんとて。  
をそれらつてよあはれしとてはひしははははらむとて  
かめよとていへ。東西南北。敵を味方たれとて。  
善悪をたれ合戦さつひたははとてく。公方旗  
かへてせまへ。一はつとてん。河越の城の教目と  
る。とせめた。一はつとてん。がひし。氏康の退治志  
かへ。一はつとてん。公方極の河  
越へ。六年。由る。とてん。是よ。河越の城。  
海。二年。少さ。つとて。小城中。餓死。なる。



由とやろ氏康出陣一。多勢よ一合戦一運命  
とば天子よまうはへ。と敵陣をくもると三二戦  
いあよ。云方極へ氏康一通の状とをよと河越  
龍城よ付と。まて云方極のわつらひさくかく  
政なるとのへた。とてよ骨肉同姓の交はるま  
らまは上若君極中後生ひ来ひた忠義一三  
昧よ。わらさむる後。よ。去年。後別よ。ま久保の  
地。丸けりひま。よ。憲政後治とて。河越とどり  
手記。と上中勅府の依と。憲政とさつと。よ。上  
あ。よ。と。や。く。ひ。氏康事。も。山。勝。が。よ。ひ。ん

は別一方のよ。龍。並。切。り。い。ま。く。ま。る。く。ひ。た。め。あ  
る。と。あ。く。ひ。う。な。く。ま。る。く。ひ。の。若。君。よ。わ。ら  
極。中。威。を。あ。ま。さ。い。よ。上。ひ。あ。よ。と。ま。の。か。ら  
と。く。ま。て。あ。せ。い。く。の。水。書。簿。あ。り。載。り。再。三。と。い  
ど。く。と。強。安。城。の。ね。り。ひ。と。か。く。な。り。ま。ひ。あ。り。難。攻  
田。沼。正。忠。小。野。國。後。守。下。上。の。よ。ま。ら。な。く。て  
上。さ。い。と。ひ。の。く。さ。れ。あ。ら。ぶ。と。れ。あ。年。よ。及。び。旗  
三。し。ま。い。り。る。城。中。三。千。余。人。籠。置。ひ。者。大。軍。報  
の。月。海。と。ま。さ。れ。よ。あ。く。難。攻。よ。と。よ。由。取。る。よ  
付。く。河。越。龍。城。の。と。の。ガ。命。下。計。の。教。め。ん。し。ら



要害<sup>しやうがい</sup>を<sup>を</sup>わ<sup>り</sup>て<sup>し</sup>て<sup>さ</sup>ら<sup>に</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>納</sup>得<sup>の</sup>後<sup>に</sup>  
 此<sup>の</sup>上<sup>に</sup>氏<sup>康</sup>武<sup>烈</sup>砂<sup>羅</sup>の<sup>地</sup>へ<sup>打</sup>出<sup>し</sup>た<sup>後</sup>傷<sup>声</sup>  
 馬<sup>助</sup>小<sup>田</sup>政<sup>治</sup>代<sup>友</sup>菅<sup>谷</sup>隱<sup>岐</sup>守<sup>末</sup>守<sup>不</sup>見<sup>の</sup>  
 人<sup>よ</sup>い<sup>と</sup>と<sup>た</sup>陣<sup>中</sup>へ<sup>を</sup>振<sup>り</sup>出<sup>し</sup>て<sup>唯</sup>と<sup>要害</sup>  
 的<sup>と</sup>し<sup>て</sup>入<sup>り</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 き<sup>天</sup>の<sup>網</sup>よ<sup>り</sup>入<sup>り</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 乃<sup>り</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 中<sup>使</sup>撲<sup>殺</sup>の<sup>時</sup>刻<sup>と</sup>し<sup>て</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 軍<sup>一</sup>我<sup>と</sup>り<sup>下</sup>立<sup>砂</sup>羅<sup>へ</sup>と<sup>し</sup>て<sup>上</sup>り<sup>上</sup>り<sup>の</sup>者<sup>は</sup>  
 康<sup>河</sup>良<sup>お</sup>東<sup>の</sup>の<sup>ご</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>糸</sup>と<sup>り</sup>日<sup>る</sup>サ<sup>と</sup>一<sup>我</sup>

な<sup>り</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 乃<sup>り</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 中<sup>使</sup>撲<sup>殺</sup>の<sup>時</sup>刻<sup>と</sup>し<sup>て</sup>上<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>者</sup>は<sup>城</sup>中<sup>の</sup>者<sup>とも</sup>  
 軍<sup>一</sup>我<sup>と</sup>り<sup>下</sup>立<sup>砂</sup>羅<sup>へ</sup>と<sup>し</sup>て<sup>上</sup>り<sup>上</sup>り<sup>の</sup>者<sup>は</sup>  
 康<sup>河</sup>良<sup>お</sup>東<sup>の</sup>の<sup>ご</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>糸</sup>と<sup>り</sup>日<sup>る</sup>サ<sup>と</sup>一<sup>我</sup>



氏康諸軍は向ていしく。それ運へ天にあり。新  
 命行ひし。いしく。上合戦の勝負犬將小將  
 おし。軍士の。と。味。とせらる  
 こ。お。とそれ大敵とわさびくとを  
 士の。とひ。と。意政と由年殺  
 の合戦。なる。味方一人と敵十人。い  
 りて十人の百人。半勝。合戦も。よ  
 一。と。敵と十人。い  
 て。味方。い。い。合戦。上  
 味方。士。一。千。氏康。大。

意政。公。か。て。天  
 文十。年。四月。廿。日。刻。を。後。と。い。ま  
 共。と。と。團。と。わ。か。く。下。知。後。ハ。命。ハ。殺。し  
 よ。て。物。討。死。して。名。と。後。記。し。と。い。ん。と。命  
 と。ハ。一。張。り。も。物。も。あ。り。て。も。あ。る。天。敵。と。撞。て  
 せ。あ。る。中。上。総。ち。是。と。い。く。門。と。い。ひ。い  
 三。子。余。勝。い。と。い。も。い。切。て。お。も。方。も。意。政。も。  
 意。と。合。戦。も。い。一。因。事。と。わ。き。天。地。と。い  
 ひ。討。つ。と。い。つ。時。も。い。一。意。政。と。い  
 ま。け。取。か。と。氏。康。勝。し。ま。て。い。さ。が。ひ。追。追



追たたり。爰しせ切伏三千余人討捕せり。誰  
 波田入道のひなを流折の強か人父子三人との  
 年人正とぞぐの若みとぐとらさる。つとられぬ意  
 を越後とさうてすのいがくとも。時茂公の下総へ  
 行氏康極威とまををりあるひらへ公方上牧の良  
 臣とぞぐとる。さあ。法人と成て。暮より付  
 それより北条。國八州と輝。強いおさの治ひぬ。さ  
 後氏康の公兄。氏政一大家督とぞぐ。氏康の元  
 龜元年度午。十月三日逝去あり。法名の大聖  
 寺。東陽公大居士と号と。氏康の父。氏継。天

文六年七月十八日。上牧朝定と河越とを  
 合戦し。氏継より勝て。約定とせしを倒り  
 いかひ。戦場うらまへと。又ひはる氏康。宿望に達し。  
 勝利とえし。事。弓矢の具加ふかたへ  
 武家。関東よと。て名譽の天物とぞぐ。大  
 倭

○房州里見家の事

見すの今。安房。上総。南の海中へうらび。起と  
 國と。あう。いお。國と。里見の家。代。おと。君  
 臣わつらり。公。久の國。かり。細。隣國。下。總の國



と儀をなすうひて。洗井お事事なるものことさうも  
親よお國の侍親おしち縁ひい。海い子の末也  
も他國と力てふる人なり。是微ふ希代のたり  
かへへ古舟よ

親のあや。よれ子の子まで山駁のかられ火なり  
て。親とともどもあやも。あはも是いよさうくさひ  
出せり。親よあの子はうるされ左二個又さのあらと  
専と。文武とさう。かとも強ひり。福強り。上義を  
このりへへわへて服せども。わりの事なり。とさく。は若  
星身なちの義なり。仁と力と。強へ。徳は皆仁

のろとなを。かよ仁者かか。くも。勇あり。とさく。義理  
を。知く。され。げ。お。と。さ。お。か。れ。は。二。足。も。ひ。う。と。名。と  
争。し。命。と。か。り。ん。と。孔子の。を。ま。す。く。礼。よ。さ。ん。が  
云。と。か。り。も。礼。よ。わ。り。ざ。れ。は。祝。と。か。れ。礼。よ。わ。り  
ざ。れ。は。聽。と。か。れ。礼。よ。わ。り。ざ。れ。は。幼。と。あ。れ。と  
と。り。れ。よ。お。國。の。侍。礼。義。歳。を。ま。よ。さ。く。よ。さ。く。よ。さ。く  
人。を。下。と。わ。り。と。さ。く。と。下。と。さ。く。人。も。よ。と。敬。せ。と  
と。さ。く。の。か。り。ふ。よ。律。義。と。た。り。か。り。お。り。は。礼。義  
と。さ。く。の。か。り。と。と。と。お。か。り。の。月。の。礼。義。地。よ。と。さ。り。  
元。正。の。わ。り。と。と。と。お。り。の。義。の。作。あ。へ。徳。行



此仕の時とて人のくし井ふりて礼の次書多々  
 かふる。王君のうりしきとて記おとく立人おけり。  
 出書とてくく上よ。行者の礼とて云て。青とて  
 人へ別もきげ又お青の礼とて。王君のおへも別  
 事あるとて。上行業の礼。お茶の礼と云りあり。  
 是時ハ一人のまもと。お方見合同時ハ業とてものじ  
 がさふ礼おたり。び上よ。お最内外の礼。最礼  
 立礼とて。君臣の別。おお龍この礼おわも。下く  
 お至まで。文正月。盃の礼おはきて。きんぐひよ。七  
 おはく。西より十でな行りて。後。卒。至。盃と

多々わづらたよ。正月中ハ諸侍は礼お。かつ  
 ひつと。海なく。きんぐ。か。り。相別。水。際  
 氏。お。と。か。う。ひ。う。わ。ひ。ま。そ。く。天。心。又。年。の  
 夏。里。見。お。田。多。へ。流。人。を。り。し。和。睦。と。は。け。時。  
 多々他國とて。始。し。り。來。大。國。臣。服。臣。諸。の。國  
 ち。り。と。て。平。安。房。の。國。へ。行。を。り。し。時。わ。の。志。士。  
 わ。ひ。て。房。州。里。見。家。の。先。祖。と。為。お。り。先。王。か  
 多々。内。で。い。し。く。し。れ。や。侍。へ。一。等。者。安。房。の。國。の  
 安。西。全。翰。丸。東。茶。と。号。し。り。人。の。侍。わ。り。安。房  
 一。國。と。言。入。し。て。後。殿。と。は。い。人。と。文。武。よ。並。し。と。



上子細く言天と号してき。此も在  
 名と名家ありて、まは、東村、舊我の、  
 の國、安西、全鞠、九、東、糸、とわり。是、  
 かの、安房、よ、い、の、を、  
 合戦、より、ら、ま、け、母、に、く、房、別、へ、移、り、安、房、國、  
 位、人、九、五、郎、信、俊、安、西、二、郎、幸、益、と、い、せ、ん、よ、  
 け、は、ま、糸、下、の、者、を、わ、つ、つ、く、く、か、ら、の、糸、  
 ら、と、い、と、東、流、よ、は、き、り、び、名、人、の、わ、く、そ、く、  
 事、か、ま、さ、べ、は、一、ゆ、り、然、よ、房、別、は、人、の、中、運、乃、  
 と、名、り、や、不、和、安、本、と、い、よ、分、て、り、矢、と、い、  
 東西南北、よ、い、て、美、と、み、ご、合、戦、も、も、  
 上、野、里、見、の、任、人、馬、助、義、也、と、い、  
 仕、合、り、も、上、列、と、い、り、そ、い、安、房、の、國、へ、梅、り、て、安、  
 西、家、中、の、軍、人、か、ま、く、甚、忠、と、い、は、た、美、の、勇、  
 士、か、り、び、者、く、ま、の、美、よ、及、ぶ、て、き、し、と、い、  
 一、事、と、い、て、ま、つ、事、か、一、安、西、も、と、か、ん、  
 摩、利、支、天、八、様、大、井、の、身、現、と、信、  
 一、く、さ、大、物、と、い、救、済、の、合、戦、よ、勝、利、と、い、  
 此、人、勝、お、ま、く、あ、へ、と、い、せ、わ、く、地、を、  
 三人、と、い、り、が、終、り、安、房、の、國、へ、安、西、一、人、守、護、

東西南北、よ、い、て、美、と、み、ご、合、戦、も、も、  
 上、野、里、見、の、任、人、馬、助、義、也、と、い、  
 仕、合、り、も、上、列、と、い、り、そ、い、安、房、の、國、へ、梅、り、て、安、  
 西、家、中、の、軍、人、か、ま、く、甚、忠、と、い、は、た、美、の、勇、  
 士、か、り、び、者、く、ま、の、美、よ、及、ぶ、て、き、し、と、い、  
 一、事、と、い、て、ま、つ、事、か、一、安、西、も、と、か、ん、  
 摩、利、支、天、八、様、大、井、の、身、現、と、信、  
 一、く、さ、大、物、と、い、救、済、の、合、戦、よ、勝、利、と、い、  
 此、人、勝、お、ま、く、あ、へ、と、い、せ、わ、く、地、を、  
 三人、と、い、り、が、終、り、安、房、の、國、へ、安、西、一、人、守、護、











礼として臣の君として人として君の民として  
 子として民の君として父として君の民として  
 自今以後忠をこころひせば其感状として  
 元日の礼として位はぐ教免せらるるよしとて  
 さんと云々御の御辱として一は是れ其の天  
 幸なりと云々上と義をゆるる所状の旨を  
 物せり。蒙のうらみはつらふよしとて  
 ひろびるのゆへんなり。自と以後おとて忠臣  
 を感状として元日の礼として位はぐ免せら  
 るべし。紫衣一は諸侍の御りしよしとて  
 乃肩とひく礼を合戦日とれ事なれば  
 元日の礼位よりとてかく所をよは出向とある  
 といふ者合戦のみごつと番達とにさげた  
 といふ一はつらふりおらびかひびおけり  
 教免せらるるよしとて又かく所をよは出向  
 といふ。馬よりりらんでたあは氣免  
 といふ。首とてお青の礼としてゆるる。又  
 といふ。軍の守の井をたぬ  
 といふ。罰の者と名乗あつておけり  
 といふ。員としてたがきつらふ首とてけり  
 といふ。

乃肩とひく礼を合戦日とれ事なれば  
 元日の礼位よりとてかく所をよは出向とある  
 といふ者合戦のみごつと番達とにさげた  
 といふ一はつらふりおらびかひびおけり  
 教免せらるるよしとて又かく所をよは出向  
 といふ。馬よりりらんでたあは氣免  
 といふ。首とてお青の礼としてゆるる。又  
 といふ。軍の守の井をたぬ  
 といふ。罰の者と名乗あつておけり  
 といふ。員としてたがきつらふ首とてけり  
 といふ。







見しハ昔相州小田原玉影坊と云て年々  
をる山伏も。魚売差さほも山外物治せしれ  
之。我関東より毎年大峯へのが。草録しつゝ  
年。秋水の湯へ下り。おあしをかき鳴物のこゑ  
しる。是ハ何事そやと云へ。鉄炮と云物。唐國  
しり。天正七年。初く。海に下ると云て。自  
當とく。う所我老とらん。扱も不心。あさどく。成  
物。ちるとれり。ハ。ハ。鉄炮と二挺。買て。関東へ持て  
下り。谷飛。氏。総へ。進上。と。び。鉄炮と。教。せ。し。れ  
海。へ。きて。関東。ふ。を。と。く。ひ。と。か。り。ま。宝。か。り。と。く

秘蔵し。後へも。道國。地。國。弓。矢。ふ。を。ひ。さ。つ。ら。つ。の。  
し。と。や。る。毛。ハ。武。士。の。家。れ。な。り。な。り。し。り。法。西。ハ  
即。為。朝。ハ。大。夫。末。と。引。日。が。雙。の。精。兵。か。り。  
弓。勢。と。ら。海。か。ん。た。め。よ。あ。の。三。銃。と。か。う。の。本。  
乃。技。よ。け。六。重。と。村。ご。と。キ。キ。強。り。也。保。元。の  
合。戦。ハ。新。院。の。味。方。ハ。八。郎。一。人。多。く。惣。村。も。  
と。者。お。か。り。教。方。務。め。く。せ。び。り。と。し。た。び。矢。り  
と。そ。れ。院。の。赤。門。射。つ。事。か。か。ん。ど。と。う。や。し。と。ら。り。  
を。て。も。し。此。し。あ。い。と。を。い。と。れ。べ。と。そ。う。て。ふ。い。と。  
と。い。ふ。ふ。と。ん。や。は。鉄。炮。ハ。八。郎。が。り。母。も。勝。り



からぐべし。聖帝より入て一挺かゝるおかしき神が  
とれしが氏康時代場より國康とては鉄炮とりの  
名入ともい下りしはひねね根元法師お教房。  
二王坊岸和田かゝる者下りて國東とけり  
まづいで鉄炮と名し入しと見えは人毎に持し  
こりされし。徳也一年小幡氏直と小田原龍城  
の両名鉄の垣をいすでれり。海上六波島もさ  
く。舟とけりとも。秀吉西より入りて山城を  
具し小田原の城と目の下ふんく治るる。秀吉  
教方の合戦城せりとも。とた。行軍勢とそ

海鉄炮列とせし事。幸かから内刻と定め  
一同よりれを鉄味方の鉄炮の流りては諸人せ  
びと治るる。鉄がいはわらまらりてくる。來又月  
十八日の夜。教方挺の鉄炮や。並せりて指を  
矢倉も。破りかき打く。はとへり。氏直も関  
八洲の鉄炮と。並く。月と。秀吉と。さる事  
かれ。鉄も。方お。鉄炮と。せん。矢校  
間一鉄炮三挺けり。と。大鉄炮と。けり。と  
さ。渡の。母。向て。海。出。を。を  
し。や。お。十八日の。前。し。め



歌と味方と。一秋がわひのら敵と。これ天地震動  
し。月のまゝと煙と。ほまき。ひとへ。くら。敵と。か  
され。火のひる。ま。わ。つ。は。と。取。り。か。く。と。ゆ。つ。の。あ  
天の星のやと。一。氏。臣。の。ま。の。矢。念。し。揚。り。せ。と。ま  
見。る。ま。く。相。争。し。よ

地。の。ま。の。星。の。海。も。の。が。を。る。う。と。か。ん。の。わ  
か。打。決。炮。の。火。と。と。口。と。あ。ひ。る。ま。の。な。は。あ。り。作。す  
あ。ん。と。し。て。は。く。は。依。吐。の。ま。く。敵。の。海。も。ま  
ま。び。う。よ。螢。火。の。ま。の。か。れ。か。る。う。と。城。中。の。決  
炮。の。ま。の。ま。か。ら。星。月。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。

これ。氏。直。と。と。つ。て。せ。治。ふ。事。が。わ。り。か。り。ま。  
敵。よ。と。秋。の。決。炮。よ。敵。味。方。耳。目。と。ま。ど。う。と。と  
事。代。表。と。し。り。星。光。相。判。の。住。人。小。田。系。り  
ろ。と。ま。や。う。し。と。ま。と。れ。と。れ。と。れ。と。れ。と。れ。と。れ  
ま。の。海。心。決。炮。唐。國。の。水。正。七。年。の。決。り。と。と  
ま。の。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と  
か。り。扱。又。用。八。割。め。く。と。れ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と  
年。の。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と  
源。義。明。と。滅。亡。の。事。村。首。実。檢。の。事  
や。う。の。首。元。士。治。り。く。る。天。文。の。ま。の。源。義。明。



を下総の國有らして小弓の敵より復た  
 小弓の市平と号し是は改氏云の次男晴氏云の伯  
 父等とも古河の云方晴氏云と市中不和して  
 牛久保の事ありと云は伊豆相模の守備は  
 氏總の友成上校修理太史朝真子息又郎範定  
 とすといひ武州に戸の城國國河越を城とせ先  
 落し武蔵とまき由より少らむとそれゆか  
 小弓河の云方の氏總の輩一味なり晴氏云小弓の  
 市平と違討多きなり。氏總と市平の事より  
 氏總下総へ出る。一。晴氏とありといふ。

義明云い。一。やまを教し。其の。たわらむ  
 市平と云く。色をとり。里人義弘。安房上総の國を  
 義明と。道々一味。義弘。安房上総。國  
 の軍兵と別率。義明。加勢。して。せく。り。り  
 天文七年戊戌十月七日巳の刻。一。合戦。した  
 べし。國を。あき。あき。さ。さ。ら。ん。で。村。を。あ。ま。さ。す  
 一。義。と。なり。ん。と。余。と。か。り。ん。と。村。を。あ。ま。さ。す  
 を。ま。く。す。と。い。ひ。が。市。平。と。ら。ま。け。り。と。い。ふ。と。い  
 かん。と。氏。總。勝。し。業。と。違。り。つ。き。を。切。り。を。二  
 子。余。人。村。捕。市。平。父。子。金。才。基。頼。云。城。を。一。つ。り。



里見義弘の上総と一争して落しぬ。高名と一争  
勇士赤首引びかく。氏總のいさむしと一争する。氏總  
さきの時其まゝ一旗とまゝく。赤れし腰と一争し路ひ。  
中山修理少輔赤首は作も。は者較たの合戦は武  
器と一争して敵を亡し。軍法共義と。ちるれ実  
乃者。通く武士有よし。せくま。は人首。ちのく人乃  
は行かり。首討捕。戦場の仕合と。あひやて。忠の  
程を。と。ちるも。大合戦。勝利と。う。か。事。されぬ。  
一。表。港。し。ぬ。さん。て。首。討。ぬ。者。た。か。り。大。物。の。首。は。ね。  
と。こ。港。下。み。く。討。捕。首。一。番。二。表。と。海。と。と。た。

流橋かたの。か。ま。と。せ。と。然。し。山。山。赤。表。討。捕。前。登。  
小。と。く。見。首。討。捕。あ。り。見。ま。は。味。方。大。名。た。京。  
亮。引。ひ。と。と。せ。と。と。る。び。人。ハ。武。の。か。ま。れ。わ。る。勇。士。  
幸。々。れ。と。甲。の。表。あ。ひ。の。袖。よ。れ。討。山。山。赤。表。一。表。  
首。の。能。指。人。よ。と。云。た。京。亮。見。て。り。一。番。首。は。取。わ。る。  
る。く。く。と。い。ひ。て。と。せ。と。と。く。を。く。ら。か。る。流。人。も。  
ぬ。二。千。余。討。捕。肉。よ。と。と。て。山。山。赤。表。討。捕。下。の。一。  
番。首。よ。と。と。と。扱。又。鼻。と。一。つ。う。さ。首。一。つ。持。来。て。二。  
川の。首。と。い。ひ。鼻。針。と。一。つ。二。つ。持。来。て。首。は。取。り。付。人。  
一。と。い。ふ。者。た。か。り。終。理。少。輔。い。と。く。は。方。討。死。せ。る。



味方の死骸。道海山狩ふ事とみづらきと  
 一鼻う首より先くつ死する味方の鼻  
 をぐぬ者やあらん。一年を陸の國よといて作  
 竹義を主と小山のま井を首の。いせん一  
 方勝利といえ首又百枚。六月月中旬突撃の  
 時。良とまぐ。鼻とくこ小田多入物。事  
 わり。子細をかくて鼻う事。かめわくこと  
 と首。松よつまごと。伊山助。即江川。共  
 夫。友人。法人。抽で先。強敵と雌雄と  
 わり。そのひ。討。首。助

て即。子細と。首。共。事。と。み。づ。ら。き。と。  
 一。鼻。を。首。よ。り。先。く。つ。死。す。る。味。方。の。鼻。  
 を。ぐ。ぬ。者。や。あ。ら。ん。一。年。を。陸。の。國。よ。と。い。て。作。  
 竹。義。を。主。と。小。山。の。ま。井。を。首。の。い。せん。一。  
 方。勝。利。と。い。え。首。又。百。枚。六。月。中。旬。突。撃。の。  
 時。良。と。ま。ぐ。鼻。と。く。こ。小。田。多。入。物。事。  
 わ。り。子。細。を。か。く。て。鼻。う。事。か。め。わ。く。こ。と。  
 と。首。松。よ。つ。ま。ご。と。伊。山。助。即。江。川。共。  
 夫。友。人。法。人。抽。で。先。強。敵。と。雌。雄。と。  
 わ。り。そ。の。ひ。討。首。助。







味方討つていひつゝどわくしてどがむあ  
 人か討つて者らばつゝ成れと後らむん  
 在実の老士やめて去給よ大合戦よ人むあ  
 きく徳をもらせり事也がむん戦場と名  
 けら若ら人の味方勝つてたれひ徳をい  
 味方の事ありいせりあむんいづる味方討  
 わつど切者のかむつるかたりといふ中多  
 若後あむんいづるいせり味方の首を  
 もら二かつた益かりんる在東門討つて  
 切者の名とわつていせり老士やめてられ

おふとていづるいせり味方と二つの首とあ  
 らむ切者然人の見る目あやうめつた在  
 討敵の首と目づけしいづる切者の心づ  
 りあむいせり味方討つてもては諸人ん  
 林三郎親政きくいづるいせり切者と  
 各切者といづる老士いづる大合戦へ入  
 まがかりんる味方討つるたき者といひ  
 辱しむる上敵の首とわら軍陣いづる  
 惟り津海ありんといづるいづる味方討  
 ていづるといひいせり戦胡云の時代一  
 條次郎



忠義。威勢とつるふのありふ。乱世の心づきとて  
 じのうら。まややくわむ。武清はもと家せしめ給  
 おりて。忠義と兼中として。殊せしめ給  
 子らのゆえ。素よとて。武清西侍。出給ふ。忠義  
 百一。ゆりて。素入と。若老。此家人。較對。列。惟對  
 産と。献。孟の。候。あ。り。と。五。若。祐。澄。て。し。し。と。亦。あ。り  
 とも。む。も。是。も。討。た。り。と。ま。れ。と。も。ん。ぬ  
 細。よ。と。れ。あ。武。め。り。對。して。が。も。ら。地。雄  
 と。交。と。ら。の。榮。ま。事。な。ら。の。あ。い。さ。う。思。案  
 せ。し。む。ら。款。文。と。も。ら。の。後。ま。じ。お。山。田。別

高有身。後。も。根。と。ん。と。産。と。ま。く。れ。と。こ。の  
 此。郎。の。老。者。の。あ。り。と。せ。し。め。給。は。祐。澄。が。祐。所。の  
 て。り。と。れ。ま。ま。よ。子。息。指。毛。三。郎。を。成。同。才  
 榛。谷。四。郎。を。得。お。孟。青。物。と。わ。く。忠。義。が。も。ら。へ。お  
 とも。見。ら。る。有。身。女。息。よ。と。へ。て。い。と。く。配。胎。の  
 ぬ。実。は。上。り。り。か。り。て。い。ま。は。祐。所。の。物。と。う。り。と。こ  
 ら。と。し。む。と。よ。の。内。天。照。有。内。を。京。別。の。治。と。な。り  
 太。刀。と。忠。義。が。い。そ。り。の。方。ふ。と。も。見。殊。哉  
 早。ぬ。び。内。武。清。の。治。う。ら。の。障。子。と。り。死。入。一。め  
 治。も。と。後。忠。義。が。佐。の。と。う。ら。い。新。平。太。武。友。と。一



































と多くはけし大ねの名をえ給へり。いふ將  
 徳をあげとねと武戦よりうるともあつたり。  
 孫子の兵法とくちり。勇士をりといふも  
 勇と勇いしとぞうとて謀と才と。  
 勝りて專とと。扱又小田原小原家早  
 里と本代代弓矢とやな。佛神と  
 こゝ我運といのり。仁義とあつて。民となす。  
 智仁勇の徳とく。国八代と百余年。靜徳  
 お持はしき。弓矢の巻とあせり。右の大ね武運  
 けさみる。滅せし給ひぬ。されたる。あつと。後代

とて学び。思ふ道と。学びか。

○あ上教と平氏後戦いの事

開しきじ。国東よといて。あ上教と平氏後戦  
 いの事と。やつとつこと。た。も由來と。あつと。或  
 武士治とく。とく。長身のはかり。国東の云。力や  
 号し。左馬頭源政氏云。道入君よ。ねら。由と。乞  
 きた。兵助作。成氏云。のれとく。お氏云。り。三代志  
 多し。わんか。り。と。は。山月。の。定。扇。谷。の。定。正。け。あ。  
 上。教。後。の。関。東。奥。州。が。ま。で。諸。将。の。棟。梁。を。し。り。然  
 而。よ。定。正。の。長。臣。と。尾。口。郎。兼。門。尉。景。泰。謀。教











満金打入同十六年七月十一日二浦新井の  
 城より道守子息意次郎をておろすと。早雲  
 めかりひと。早雲子息民総の伊豆の國あつ山  
 の城あつく生まれ活ひたり。又いづくも新あつ山の  
 子なり。後より下向の流をる。民総家と継早雲  
 系瑞。同十六年八月十二日病死也。大永四年  
 正月十三日。安房上杉修理長朝真。武列に戸の  
 辰城と民総責む。再真して。民総を城と。  
 約真の同國河越の城より移り活ひり。同六年十  
 二月十二日。初卯。安房の里見とあひて。

海。満倉為思。いふれ入。雪下と。被部と。民総と  
 せびりひ。合欲。討勝て。大野里見。討死と。ひと。今  
 神野と。砂法。天文六年七月十二日。上杉約定  
 武列河越の辰城と。民総せら。あつ山。武列東う。云  
 方と。晴氏と。り。是の基。公。潜。院。殿。の。は。古  
 河の云。方。極。と。号。と。後。より。下。総。の。國。小。弓。の。由。取。と  
 号。義明。云。より。後。と。是。の。政。氏。公。の。次。男。晴。氏。公  
 云。中。不。和。り。若。河。の。云。方。極。氏。總。と。云。云。の。よ  
 より。下。総。の。國。の。皆。基。と。い。と。同。七。年。十  
 月。七。日。合。戦。り。義。明。公。亦。父。子。云。を。身。基。頼。公。出







カ次男

一應永年中。禪秀乱といひ傳つる事。是は通念の

云方と云共傳持氏云と云。後、関東友成。上叔右

兼門作氏。憲は名禪秀入道云方持氏云へ送んと云。

通隆と一味。関前ハ母と云。奥羽也も文と云く

ら。軍勢と云云。通念母と云。永日。十日の大合

戦わり。持氏云討まけ。應永二十三年丙申。十二月

後河の國大森山まで。落させ給ひ。上叔安房守憲基

も越後へと云いけの事

一應永二十三年持氏云。後河よたけりま。系初へり

を。治ふし。義持云下知りて。通念りて合戦

有り。持氏云。勝滿隆云。持仲云と云。上叔大

船の禪秀入道一。持。末宮下。や。威亡の事

一應永二十三年。武田惠八郎と討の事。付信元

帰國の事

一永享子の比介の云方持氏云。通念よたけり。由と云

云。関東友成。上叔安房守憲。二。叔。送と云。り

て。系初の云方。義教云へり。お。り。系。研。地。下。の。隆

念。よ。と。り。合。戦。有。り。持。氏。云。う。ら。ま。を。同。十。一。年

己未二月十日。父子。亦。自。告。と。云。それ。り。関。東。諸

三十八



困よ。洋指葉シロギンとて。修羅のちまきシロギンとてなる。

一 永享年中。持氏トクシ云。次男トクシ。三男トクシ。康王トクシ。

後。結城七所シツシヨ。光久ミツヒサが。敏トクシとて。由ユとて。下シ。

上ウ。叔母ウヂノハハ。房守フナノリ。憲ノリ。美大ミタ。約ヨクとて。大軍オホイクサ。少シ。嘉カ。

吉元ヨシノブ年。辛酉シノト。四月十六日。結城シツシの城シとて。あし。

あ若アワ。忠チカと。生捕ナマツカ。身ミ。り。終ハレ。よ。法ホウ。別ワケ。垂井タリイの。乃ノ。場バ。

少シ。同ドウ。年ネン。の。秋アキ。勅使チツシ。下シ。り。ま。王オウ。後ノチ。康王トクシ。後ノチ。自ミ。

言コト。一ヒト。事コト。

一 文ガク。女メ。の。ひヒ。まマ。と。関東クワントウ。諸國シヨクニク。みミ。ぎギ。りリ。夫ツ。と。みミ。と。

いイ。事コト。かカ。一ヒト。と。いイ。もモ。尾ビ。をヲ。あア。入道ニツヂ。昌マサ。賢サト。ハ。文ガク。武ブ。の。

者モノ。也ナリ。関東クワントウ。よヨ。まマ。かカ。くク。と。て。まマ。と。と。持氏トクシ。云イハ。の。口クチ。男ヲ。

成ナリ。事コト。王オウ。後ノチ。信ノブ。別ワケ。よヨ。かカ。れレ。まマ。と。由ユ。と。と。引ヒキ。出デ。天アメ。

氣キ。と。うウ。と。いイ。ひヒ。信ノブ。別ワケ。少シ。持氏トクシ。云イハ。一ヒト。但タ。一ヒト。通ツウ。念ネン。の。云イハ。方カタ。

と。号ナヅケ。と。是コト。よヨ。と。いイ。て。関東クワントウ。云イハ。るル。事コト。

一 享徳三年キョウトクニシ。甲戌ケツ。十二月ジュウニグヒ。廿七日ニニチチチ。公キミ。方カタ。西ニシ。山ヤマ。門カド。成ナリ。氏シ。

云イハ。ゆユ。らラ。と。と。いイ。て。上ウ。叔ウヂ。右ミダ。京キョウ。亮ノリ。憲ノリ。忠チカ。と。誅チ。一ヒト。

孫ムコ。小コ。比ヒ。時トキ。上ウ。叔ウヂ。引ヒキ。分ワケ。て。まマ。と。と。いイ。ひヒ。也ナリ。一ヒト。族シラ。洋ヒ。指シ。

多オホ。く。成ナリ。氏シ。云イハ。叶エフ。ハハ。と。古コ。河カ。へ。馬ウマ。と。入イ。りル。事コト。

一 康正コウセイ年中。諸國シヨクニク。兵ヘイ。乱ラン。をヲ。まマ。らラ。るル。事コト。よヨ。上ウ。越エ。之ノ。

さサ。入イ。りル。居イ。住ジュ。と。るル。上ウ。叔ウヂ。民タチ。の。大オホ。事コト。於オ。是コ。地チ。來キ。て。



一 逆后赤上と討り。東國海の事

一 文明三年卯年。公方成茂公。上校とてくひ成茂公討り。古河と去て千葉へ引籠る事

一 文の年中。主后とてくひ。和睡の義あり

一 同十年戊戌七月十七日。成茂公古河へ城の事

一 文明年中。長尾曰。即右衛門尉景忠。主君上校

修理長定正。逆后とてくひ。武別又十子ふとて

合戦とて正討り。新形の城より入り給ひ。組

是ハ上校取定へ逆后とて記し。なる文あり。はび

二流から事

一 同十八丙午年。扇谷上校。定正家。老太田道灌と殊

とて。阿よむく。上校の棟梁。山内取定と不和。柴木上

校とてくひの事

一 同年二月又日上校。取定と同名。定正。相別。実を

原合戦の事

一 同年六月八日。相別。次。実谷系よとて。湯倉の事

一 在馬。政成公ハ定正と一味。取定と合戦の事

一 同年十月三日。上校。武別。高見。原一戦の事

一 長享二戊申年。武別。松山よとて。上校。我ハの事

一 延徳年中。伊豆國。小除。上校。越の。河。下。し。は。も。後



一 別上居住しつ伊勢新九郎早雲氏後清和より  
伊豆の國と切て多ク

一 明應三年甲寅九月廿三日相別新井落城三  
浦の町を滅亡の事

一 的應年中相別小田原より大森流籠る在城と伊豆  
乃早雲せめむとしし事

一 文龜年中相別めく小條早雲氏茂と上杉政之  
戦ひの事

一 永正九年甲子九月武別河越の城を上杉政之  
朝良加攻りて今川氏親小條氏茂と味し武

一 別上河原より上すぎ政之と合戦の事

一 同年十月上杉政之越後の軍兵と率し武別河  
越上杉朝良居城とせむり翌年のま和平の條を  
て政之越後へ歸陣の事

一 永正年中越中の上杉九郎房義と家老長尾  
六郎房系と戦ひつり房義討負兩海より地り  
て滅亡の事

一 同日年云方政氏と云基云父子不和の爰出末関  
東洋指しつ事

一 同六年七月廿八日上杉政之武別より多ク金



才房義滅七進恨るんとかく武別と打  
立越中ふよとしてとれ為氣と合戦一敗

一 同七年越中の一揆おこりて上杉政長と  
くらり勝て越中西渡(為氣)といがくのり

一 同九年壬申八月十三日相別忠房の城よこ  
ぐんし越後と信濃の境と森本と高梨

一 同九年壬申八月十三日相別忠房の城よこ  
浦介道寸居城と小條早雲せり落ともす

一 同十年中三浦介道寸と小條早雲通念  
とて合戦ともす討負敗れし三浦新井の  
城よ引こりつ

一 同十二年壬申七月十日三浦介陸奥守義同  
法名道寸子息是次郎弾正少弼義意新井  
乃城よ二年をてこりり流のふの小條早雲せ  
め落し父子切腹の事

一 同十六年甲申正月十三日武別江戸上杉政  
長と朝貞居城と小條氏總せりおと朝貞ハ  
河越の城よ引こりつ

一 同十六年十二月十五日房判里見義弘舟小



て。通舎へ渡海し。為良と被却し。小條氏総

もせ向く。里見討員同名右を交討捕らる事

一享祿三度寅上秋朝真。武列河越の地よとい

て。小條氏総と交り。みひの事

一天文六丁酉の年。上秋。み郎朝之。武列河越

の領よとい。七月十八日の夜。軍。小條氏総討

勝て。朝之。み郎の事

一同月廿日。上秋。朝之。家老。維波田。彈正忠。武列

松山の地よとい。て。小條氏総と合戦し。維波田討

まけ。み郎の事

一天文七戌戌年。十月七日。下総の困。み郎の御所。

義的。み郎の御所。臺よとい。て。小條氏総と合戦し。義

明ら。み郎。父子。み郎。と。合戦。滅亡の事

一同十四し。巳乃年。後河。長久保の城。小條氏康

愼たり。後河。長久保。今川。義元。上。上。秋。意政。と。一。味

一。意政。武列。河越の城。と。せ。め。義元。長久保

の城。と。せ。び。る。事

一同十四年。右河の。み。方。晴。氏。公。上。秋。意政。と。一。味

一。武列。河越の城。と。交。年。せ。め。る。小。條。氏。康。出

馬。一同十八年。七月。廿日。合戦。し。公。方。討。員



古河へ落し。上杉ハ越後へ敗水の事

一同廿三年。甲寅二月今川義元加勢よりて

武田信玄駿河へ出馬し。小澤氏康伊豆へ出陣

一 宗とくひの事

一同年十月日小澤氏康古河の城とせめ落し

晴氏父子と相別羽田登かぎりPあう事

一 弘治二丙辰年小澤氏康天氣とくひの晴氏

云の若者亦元服とくひ左馬次義氏云一任也

葛西谷へうけり晴氏云と和平の事

一 弘治年中もて武田信玄今川義元小澤氏

康とくひの事。同二年のつらひとくひ。三辰一谷日

縁者とくひ和平の事

一同二年十月三日上杉輝虎太田三栗秋と一味し

上列へ出陣も小澤氏康出馬ト宗とくひとくひ

一 宗とくひの事

一同二年。房別里見義弘丹少と。二浦へ渡海

一 城ヶ嶋と陣取小澤氏康とくひの事

一同年十二月十日義氏云下総の國関宿へ

うけり。同三年晴氏云父子守人流石の事

一同三年。駿河今川義元尾花の國と切てと



らんし軍兵と率し責上るれ。尾別よとて織田三郎信忠おわひ。又月十九日義元滅亡の事

永祿のひかり。上杉憲政越後ふるく。上杉輝

虎とれ。陸下。信濃。上野。武蔵のゆと

出。一。輝虎大軍。て。同。三年。度

申。二月。お。回。多。く。事

一同。二年。小。條。氏。康。武。別。へ。出。馬。し。岩。村。の。城

主。大。田。三。景。舟。と。討。の。事

一。同。年。九。月。十。日。上。杉。輝。虎。信。濃。の。國。河。中

為。よ。と。て。武。田。信。玄。と。合。戦。の。事

一。同。年。れ。ま。武。別。松。山。上。田。安。徳。母。城。と。小。條。氏

康。せ。の。た。と。事

一。同。七。年。甲。子。正。月。八。日。肩。別。里。見。義。弘。小。條。高

野。臺。小。出。陣。し。小。條。氏。康。氏。政。出。馬。合。戦。し

義。弘。う。ら。も。を。敗。れ。の。事

一。永。祿。年。中。上。杉。輝。虎。上。別。匠。田。へ。出。陣。小。條

氏。康。氏。政。出。馬。し。さ。く。く。ひ。の。事

一。同。年。中。里。見。義。弘。上。総。の。國。池。和。田。の。城。に。多。く。兵。を。入。れ。在。城。し。小。條。氏。康。氏。政。出。馬。し。せ。め。お



ことし事

一同十一年戊辰極月。武田信玄駿河へ出まし。  
 今川氏亮と追ひ。駿府へ旗と立ち。氏亮の  
 意別。色川へといひびくの事。

一同年中。小糸氏康と上杉輝虎たふひ  
 る。一が。小糸の義もく。同十二年のま。氏康の  
 七男。三郎輝虎の妻。子と成て。越後へ越出あり。  
 一同十二年。二月上旬。小糸氏康。戊政。駿河へを發。  
 三牧。高田寺。蒲原の城とのり。由井。薩  
 山。旗と立ち。武田信玄と。同二月。越後。いわり

伝玄。陣と持て。甲州へ送り事。

一同年の六月廿日。武田信玄。駿河。加波。鳴。河。よ  
 陣と。小糸氏康。戊政。駿河へ。發。向。信玄。い。る  
 と。と。く。大。討。一。周。事。と。上。ん。の。信。玄。お。と。給。さ  
 敗軍と。八。橋。大。井。の。旗。と。打。と。て。大。も。と。が  
 所。甲。府。ま。で。諸。軍。を。と。り。を。送。行。す

一同年。十月上旬。武田信玄。信濃。上。野。氏。亮。の  
 酒。勺。ま。で。働。る。同。三。橋。合。戦。の。事

一同年。極月。駿河。蒲原。よ。小糸。新。三。郎。在



一 概して信玄せりおと事

一同十三年のまゝ。武田信玄駿河へ出陣。小條

氏政駿河へを教をよこすの事

一元龜元年度午の夏。氏政西上。別へ出陣。武

田信玄も出馬。すくひの事

一同二年。北秋。小條氏政を別りて。佐竹義重

と對陣の事

一天正元年。癸酉の冬。下総の國。國宥の城を

築田中勢を。謀殺し。小條氏政出陣。關

宿の城とせむ。佐竹義重。後。治とて出

陣。もと。ソ。在。竹。は。引。退。く。築。田。中。勢。は。次。の

年。又。月。十。一。日。概。と。あ。き。は。な。し。事

一天正年中の。く。さ。と。は。患。を。出。陣。し。受。け。つ。る。

源勝頼と。平。氏。政。と。和。睦。の。教。を。よ。こ。す。て。同。又。年。勝

頼。旗。下。お。お。る。を。上。勝。頼。は。氏。政。の。い。り。を

む。こ。と。お。り。甲。相。一。味。の。事

一同年中。ま。ま。で。小。條。氏。政。と。里。見。義。頼。と。う。み

な。り。が。同。又。年。の。交。わ。つ。ひ。を。く。里。見。人。小。田

原。信。人。と。源。和。平。の。事

一同六年。越。後。の。上。杉。三。郎。景。虎。と。長。尾。景



一平次系勝と洋指りも。系虎討負滅亡の事

一同七年のまよ小原氏政西上列へを奪ふと武田

勝頼と出陣馬場の事

一同八年三月源勝頼駿河浮橋系へ出陣平

氏直と伊豆の三浦の事

一足利河の海へ舟をくだると勝頼浮橋系へ

出陣物の事

一同年の冬。駿河の國中。戸倉の城代は三系

新六郎平氏直へ謀叛し。源勝頼は一味も

是より以て勝頼駿河へ出陣。氏直も伊豆へ

出陣の事

一同九年二月源勝頼駿河へ奪取も平氏直

出陣の事

一同十年三月十一日信長公田川へ發向源

勝頼滅亡の事

一同年六月十八日龍川左近將監上列前橋の

城より源氏直と合戦し。海門より源氏

直の事

一同十三年九月。義宣下野へ出陣し

大田和守陣死。源氏直も出陣。お怒り

源氏直の事



とまじり月より七月まで討陣せしむる事  
陣のりるお良おきて合戦かりつてありし  
るまじり双方をたはしむる事

一 同十八年のま。秀吉公園東へ發向同三月廿九

一 日。豆別山中の城とせめりし事

一 同年七月六日。小田原落城お除家滅亡の事

一 慶長二年。慶子のま。上杉中納言。氣勝陸奥

おといて。洋指と家康公。秀忠公。同七月廿日

一 同。年七月のひがひ。石田治。お縛三成。謀叛

是よりいりて。家康公。秀忠公。お出馬。同九月十日

日。義濃國。喜望峯の合戦。園西。おらまけ

滅亡の事

一 同十九甲寅の年十月のひがひ。秀頼公。お軍。秀忠公

を對し。洋指。則。秀忠公。諸軍と率。一。揚。列。大坂を

發向。城とせめり。お秀頼。お後。氣。お頼。命

せり。同。月。下旬。落。城。の。事

一 同。年。二十三年。申。年。の。乱。下。り。お。東。慶

長。十九。年。百九十六。年。の。月。治。世。お。と。園。東

諸。國。よ。と。い。て。合。戦。を。お。し。り。お。と。い。し。を



中々うふ後ろ人なり。されたる事あり。あつらひ。及  
及びキ。大合戦七十七夜あり。こも。次。友。友。の  
一。書。と。三十二冊の内。目録とよ。注。  
もんづる。て。い。ま。ば。人。か。か。う。と。つ。が。に。ば。と。注。  
也。他。説。と。難。ど。う。い。ま。い。め。へ。より。あ。り。  
丞。と。ろ。文。を。も。一。極。よ。あ。う。と。許。由。耳。と。流。  
巢。父。半。と。別。と。云。傳。り。所。よ。逸。士。傳。り。も。く。  
許。由。が。物。ぐ。り。と。巢。父。半。と。耳。と。わ。り。よ。棟。  
仲。父。と。よ。朋。友。半。と。別。と。記。せ。り。く。の。と。記。乃  
矣。流。上。て。か。ぞ。う。べ。く。と。扱。又。扱。減。る。關。東。乱  
國。の。後。と。書。と。記。せ。り。た。さ。小。札。と。か。り。よ。極  
か。う。も。老。人。わ。ま。さ。う。り。よ。め。り。よ。流。に。か。り。も。く。  
い。ま。し。と。美。と。う。づ。き。と。歴。と。せ。ん。お。り。い。物  
後。よ。と。二。人。の。う。い。さ。と。二。説。よ。あ。り。と。也。も。わ。り。  
あ。う。き。う。つ。ま。ち。さ。文。と。二。つ。見。と。二。文。と。い  
や。し。二。人。の。あ。り。と。二。人。の。あ。り。と。ん。や。扱。の。註。号  
ふ。あ。り。と。二。人。の。あ。り。と。二。人。の。あ。り。と。

小條又代記卷才三終



御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書



110X  
231  
10